

〈PR〉

# カラダの 相談室



松山眼科クリニック

第1回

院長 松山 加耶子さん



## 白内障

白内障の主な症状は、かすんだり、ぼやけたりするなどの視力不良があります。50歳代では45%の人が発症し、さらに高齢になるほど白内障が増えるといわれています。

## 加齢が原因で誰しも発症 眼内レンズを手術で挿入

**Q** 白内障は悪化すると失明する原因にもなると聞きました。原因や症状、予防・治療法を教えてください。

**A** 白内障は水晶体(カメラのレンズの役割)が濁ったり、固くなったりする病気で、失明原因の10位以内に入るといわれています。原因は一番多いのが加齢です。その他には糖尿病やアトピー性皮膚炎などの病気やステロイド剤の長期服用、外傷・炎症、紫外線なども原因となります。

ある調査では50歳代で45%の人が発症し、60、70歳代では自覚症状の有無に関わらず発症はしています。また、80歳代以上になると、ほぼ100%という報告もあります。加齢による白内障は誰しもが避けて通れない病気です。

症状的には、かすむ、ぼやける▽まぶしい▽二重、三重に見える▽暗くなると見えにくい▽色がくすんで鮮やかでない▽視力が落ちた▽焦点が合いにくいーなどが、人によってさまざまです。いずれか一つでも感じたら白内障の可能性はあります。

予防はなかなか難しいところがあります。加齢による場合はまず視力が落ちて気付くことが多く、健康診断などで定期的に視力を測ることが予防の第一歩とされています。また、人間は両目で外部からの情報を得て、脳で調整しながら見えています。日常生活の中で時には手で片目を塞ぎ交互に物を見る習慣をつけてください。「何かおかしい」と思ったら目の病気がおそれません。

**Q** 白内障と診断されました。どのような治療になるのか教えてください。

**A** 現状では薬で治すことはできません。初期であれば、目薬で進行は少しでも遅らせることができますが、進行している場合は手術です。



まつま・かやこ 関西医科大学付属病院眼科入局。2009年関西医科大学大学院医学研究科博士号修得。その後、関西医科大学に勤務。19年間西医科大学総合医療センター外来医長などを経て20年8月に開業。日本眼科学会専門医、PDT(光線力学的療法)認定医。日本白内障学会、日本緑内障学会、日本網膜硝子体学会など所属。  
☆松山眼科クリニック  
大阪府四條畷市楠公2-9-11  
Tel 072-395-2881

〈企画・制作〉産経新聞社メディア営業局

手術は濁った水晶体を砕いて吸引したあと、眼内レンズを挿入します。痛みが少ない低侵襲(しんしゅう)手術で多くの医療機関では日帰り手術です。手術処置だけの時間は約10分です。白内障は自然に治ることはありません。併発する恐れのある目の病気もあります。基本的には、進行するまでに治療するほうが良いと考えます。

挿入する眼内レンズには大きく分けて遠(3〜5㍎程度)中(1〜2㍎程度)近(30〜40㍎程度)のいずれか一つに焦点が合う単焦点レンズと複数焦点所に焦点を合わせた多焦点レンズがあります。ただ、後者のレンズは乱視の強い人や夜間に車の運転を職業とする人などには適していません。

眼鏡から解放されたい、手元をはっきり見たい、野外活動を活発にしたいなど希望するライフスタイルに合わせて眼内レンズを決めます。眼内レンズの種類の選択は治療する医師とよく相談することです。

費用面は健康保険適用の単焦点レンズが3割負担の人で約4万円。多焦点レンズは選定療養(※)となりますのでレンズの種類によって料金が異なります。医療機関によって治療費も違うため確認が必要です。

白内障は症状が気付きにくい病気です。50歳を過ぎるといろいろな病気になる可能性が高くなる年代です。高血圧など生活習慣病の検診をする時、目に自覚症状がなくても眼科検診も合わせて行ってほしいと思います(今回は緑内障)。

※選定療養II(多焦点レンズ手術の場合)手術・技術料自体の費用は保険適応され、日本で承認された多焦点レンズを使用した場合、単焦点レンズとの差額レンズ代は自費になる制度。